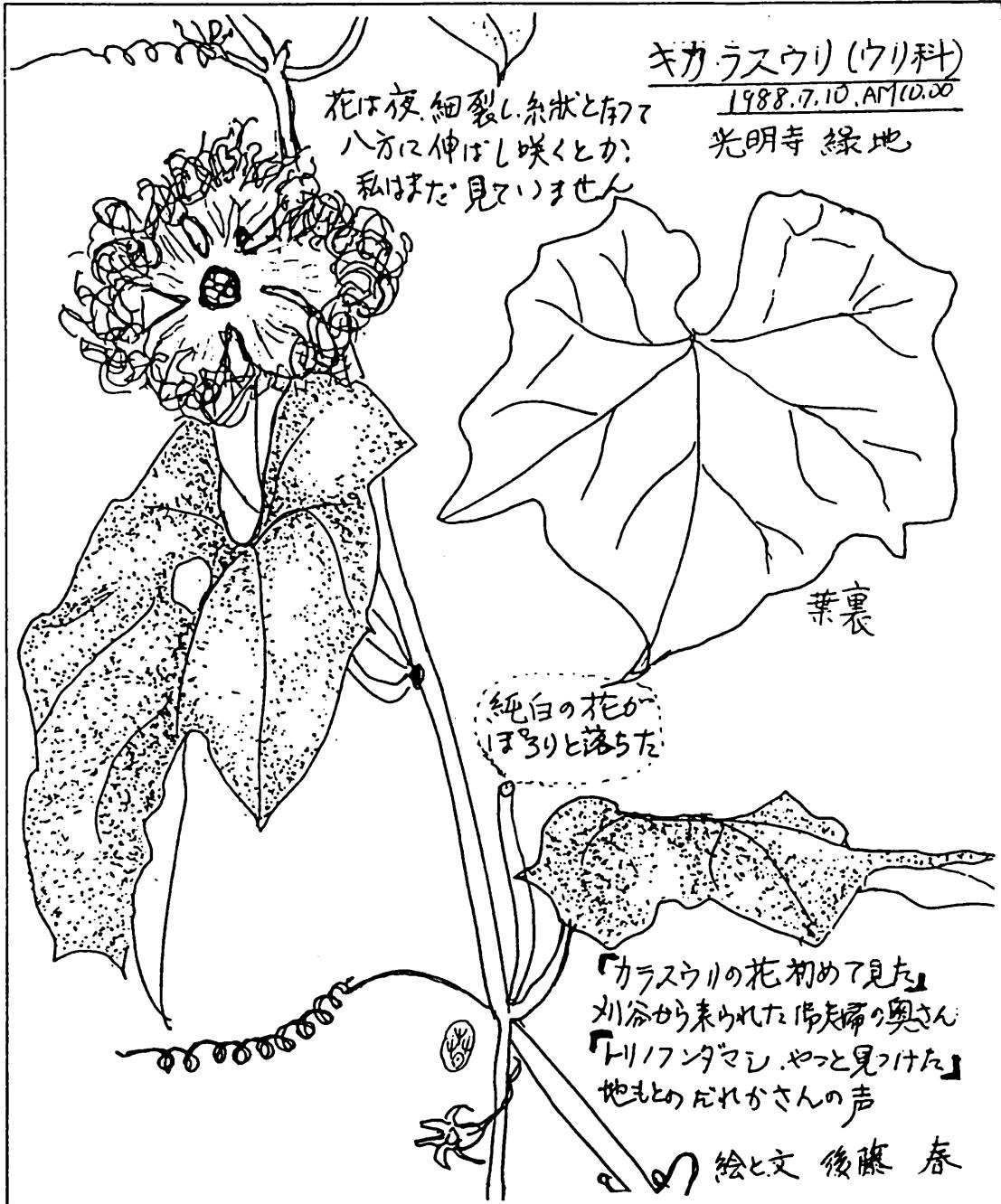


協議会ニュース

34号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1991.7



花の藤原岳観察会

尾張支部 北岡明彦

愛知・三重両県指導員協議会初の合同観察会が、4月29日（祝）に三重県員弁郡藤原町で行われました。あいにくの早朝からの雨のため、両県ともに6名ずつの少人数となってしまったのは大変残念でしたが、参加者の心が通じた楽しい観察会となりましたので、その結果を報告します。

そば降る雨の為、藤原岳自然科学博物館の会議室で自己紹介と両県協議会の活動状況について情報交換、清水さんによる藤原岳周辺の自然の紹介をしているうちに雨も上がりました。雨が上がればじっとしていられないのが私たちフィールドワーカーの特質です。目的地を鞍掛峠に変更して、3台の自動車に分乗して出発しました。

鞍掛トンネル入口に車を止め、ごく最近の伐採跡地を鞍掛峠まで約30分。石灰岩地帯の急斜面を伐採したため、土砂崩壊が起き始めているのが、大いに心配されます。ヤマルリソウ・マルバコロンソウ・ハクサンハタザオといった草花は咲き誇っていますが。



鈴鹿山脈北部の位置図

峠を越えるとカタクリの群落が出迎えてくれましたが、花も峠を越えていました。昼食後さらに登ると、ブナとアカガシが混生して出現、しかし共に個体数は多くありません。稜線に出ると岩質が変わり、土壌PHもアルカリ性から

酸性に変化したためか、植生もまた変わりました。なんといってもホンシャクナゲの群生が、それを証明しています。その他にも、イワウチワの大群落・バイカオウレン・ミヤマシグレ・ヤマソテツといった岩地性植物が目につきました。いつも見慣れた藤原山系の植物達とは、少々異なっています。

藤原岳や御池岳のようなスプリングエフェメラルの超多産地と比較すると植物の種類はずつと少ないものの、イワウチワとホンシャクナゲの美花に満足した1日でした。

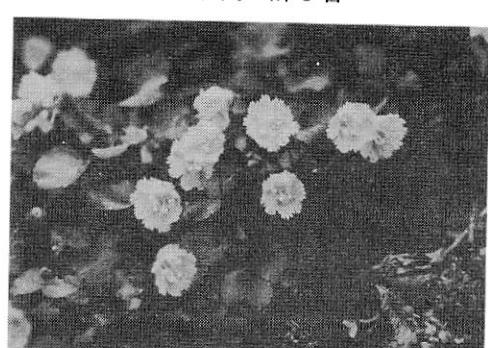
しかし、船原部落に近い中部電力の鉄塔から見た藤原町周辺は、ゴルフ場が眼の前に広がりこれからも造成の計画があるという話で、今後の自然の成り行きが心配されます。鞍掛峠付近ではスキー場建設の話もくすぶっていますし、崩壊の可能性の強い急傾斜地の人工林化も徐々に進んでいます。それだけに、清水さんや伊藤さん達地元在住の指導員の方々の活躍が大いに期待されます。参加した私達も、三重県指導員の方々の頑張りに大いに刺激を受けました。

早朝の雨にめげてしまった皆さん、秋の合同観察会（9月29日予定）には是非参加して下さい！

【参加者】

三重県：橋本（事務局長）・伊藤夫妻・加藤・小林・清水 計6名

愛知県：鈴木（尾張支部長）・平井・福富・伏屋・北岡 計6名



本当に可愛いイワウチワ

[シリーズ] 私のフィールドII

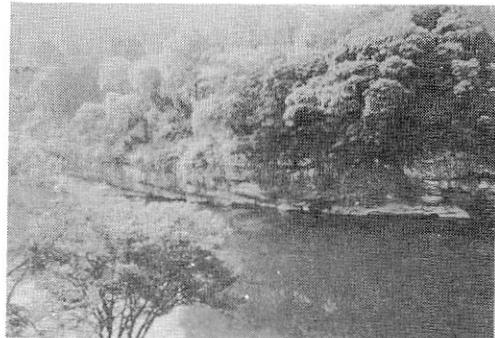
桜渕と腕扱山 (うでぐわま)

奥三河支部 熊谷尚久

名古屋にいる娘が帰って来たので、久し振りに親娘三人で、ソメイヨシノ桜が散り、フゲンゾウ桜（八重桜）が満開の桜渕公園に出掛けた。

若葉が美しく陽に映えるこの季節の豊川は、格別美しい。桜の樹の下のドウダンツツジ、キリシマツツジ、ヒラドツツジ、オオムラサキ等の花は、周りを明るく暖かくし、早咲きのフジ、ボタンの花もそれに加わっている。川岸のサイカチ、クヌギ、アベマキ、ケヤキの逞しい高木の枝にもクリーム色の若葉がつき、まさに、桜渕は若葉に萌えて、自然の美しさを実感させてくれる。ここ桜渕は、元来笠岩といわれる景勝地であったが、1662年、新城城主の菅沼定実が桜を植樹して遊園地にしたことにはじまるといわれるが、「愛知の嵐山」と言ってよい。

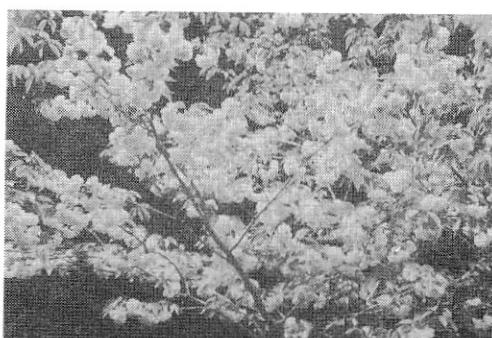
豊川にまたがる真赤な吊り橋「笠岩橋」の上から上流を眺めると、岩が岸に切りたち、上部が川へ突き出ている笠岩と、その先に続いている蜂の巣岩が目に入る。高校生のころは橋がなかったので、よく友人とボートで蜂の巣のように穴があいている蜂の巣岩やその上の洞穴に来たことをなつかしく思い出した。灰白色の笠岩や蜂の巣岩が石灰質結晶片岩で、岩の凹凸や穴は水の作用によるものであることを知ったのは、後のことである。



桜渕の笠岩

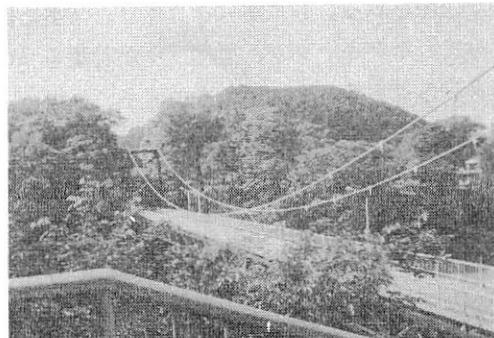
橋を渡ると橋もとにタチツボスミレが咲いていた。笠岩の林を見ると林床が、だいぶ踏み固められていることから、行楽客が多く来ることが想像される。高木層はクロマツ、スギに混じって、ケヤキ、クリ、アベマキが若葉をつけたところである。その下のクスノキ、ヤブニッケイ、アラカシ、アオキ、マンリョウ、エノキ、ヤマウルシ、イヌビワ、コクサギ、マルバウツギ、イタビカズラ、ティカカズラ等が目につく。林床はホソバカナワラビが多く、岩にはヒトツバが群生し、マメヅタ、カタヒバ等も着生している。しかし、高校生のころ、多くあったクモノスシダが見当らないのは淋しい。遊園広場には、暖かい休日のためか、親子づれが多い。

青年の家の前の車道を渡って、レストハウスまで歩く。〈橋よりここまで約500メートル〉レストハウスの横の道を登れば、腕扱山の登り口の重川池である。釣り人が5~6人、ゆったりと竿をたれて、フナ釣りを楽しんでいた。このあたりは、夏の終りごろにはトンボがよく飛ぶと聞く。ここからの登山道は二つあるが、急斜面を登る参道でなく、池畔に沿って山の南面を緩やかに上がる山道を登ることにした。池の傍にひっそりとスルガテンナンショウが仏焰苞の花を咲せ、その上のエゴノキの枝には、花の



桜渕の花

蕾がいっぱいついていた。池からの南斜面の林は、アベマキの高木が多い。林下は紫褐色のアオキの花が散りかけ、ヤマツツジ、クサイチゴの赤花、白花が盛り、沢山あるシダの中でベニシダの紅色の若葉は鮮かである。少年のころ、家の近くのアベマキに樹液を求めて、カブトムシ、クワガタ、カナブン、マダラヒカゲ、キイロスズメバチ等が集って来たことを思い出し、ここも夏休みごろは、虫たちで賑やかであろうと思いながら、ゆっくりと更に歩を進める。アベマキよりもコナラの高木の多い林になる。このコナラに混じってツブラジイ、アラカシ、ヤマザクラの高木が見られる。林下はモチツツジの紅紫色の花、ガマズミの多数の小白花を見る。ガマズミの多数の小白花から発散される特有の臭は、子どものころに嗅いだ臭と全く同じで、とってもなつかしい。



笠岩橋と腕扱山

山の山腹まで登ると、今度は右上りの山道になる。これより上は、マツクイムシによって枯死したアカマツが乱立する。もとアカマツ林である。今は、アカマツに代って5~6メートルのリョウブ、クリ、ネジキ、コナラ、カクレミノ、イヌツゲ等が散在し、林床にはコシダがぎっしりと占めている。ここでは、アリが歩き、クモは巣をつくり、ハチは飛び廻り、チョウや小さい甲虫の仲間も多く見られた。

山頂近くになれば、コナラの高木が優占で、それにツブラジイ、ヤマザクラの高木が混ざる林になる。それらの下は2~3メートルのアカ



松の枯れ木の立つ腕扱山の山頂付近

マツ、クリ、ネジキ、ソヨゴ、アラカシ、コナラ、モチツツジで、モチツツジが最も多く、ちょうど花の盛りであった。重川池からゆっくりと歩いて約30分要した。山頂に明治天皇の立像があり、その裏に「むかし武田信玄公は、2万の精銳を率いて、この山に陣を取り、うでこぎ（腕きき、腕のたつもの）をすぐって軍議を開いた」というこの山の由来が記してある。この立像の横の瓦屋根づきの展望台は、見晴しが大変よい。西の本宮山や新城古城跡（石田白跡）の方角だけ、樹木が大きくなり過ぎて視界を失っている。北は鳥居強右衛門が狼煙をあげた雁峰山、眼下に幽玄川と田町川にはさまれた新城城跡（現在、新城小学校、市役所）や町並み、東北面側は、400年前、武田軍1万5千、織田・徳川連合軍3万8千の兵が壮絶な戦闘をくり返した連吾川をはさむ長篠・設楽原の古戦場や千寿山、鳳来寺山、棚山、東面側に風切山、舟着山、南に吉祥山や金山、雨生山等の八名山地等の雄大な景色は昔も今も代わらない。自然の香りを満喫しながら、ゆっくり山をおりた。（急斜面の参道を登れば5~10分で着く）

<1991・4・21 記す>

東海市のホタル

東海市立船島小学校 相 地 満

私は、勤務地の東海市でホタルの観察会を開いて5年になります。そこで、これまでの調査や観察会の結果、わかつてきることを少しまとめてみたいと思いました。そうすることによってこれから観察の課題を少しでも明らかにすることができるのではないかと思ったからです。

5月～6月の東海市はホタルの季節。夜、様々な場所でホタルの発光がみられます。東海市に生息するホタルはいまのところ3種類。ハイケボタル・ヒメボタル・クロマドボタルですが近々あと一種類追加できるようにも思います。

3種類のホタルの分布は市内全域にわたっており、各ホタルの生息地はそれぞれ20個所以上あります。

発光の時期は、ホタルの種類によって違い、これまでに、野外で私の観察した結果は、ハイケボタルが5月29日～9月14日、ヒメボタルが5月16日～6月8日（ハイケ・ヒメとともに成虫発光）、クロマドボタルが4月14日～9月27日（幼虫発光）となっています。

ハイケボタルは幼虫期を水の中で過ごす、いわゆる水生のホタルですが、ヒメボタル・クロマドボタルは、卵～成虫までの全期間を陸の上で過ごす陸生のホタルです。ヒメボタル・クロマドボタルのいずれもメスが飛ぶことができず、両種は、分布地の移動、拡散、環境の破壊に弱い種類とみることができます。

発光の時間は、ハイケボタルが7時30分位～9時頃まで。ヒメボタルが8時30分位～2時頃。この種が、特に見事な飛翔発光を見せるのは東海市の場合は11時～12時頃。クロマドボタルは特に限定されないが、雨降り後などの湿気の多い時によく光っています。

発光の様子は、ハイケボタルが緑がかった黄色で、線状の光の軌跡を描き、ヒメボタルは、橙色のかかったまばゆいフラッシュ光で、零れるような光の瞬きをみせます。クロマドボタルは、青っぽく、じいっと一点で光っては消え、消えてはまた光ることを繰り返しています。

5月29日（水）30日（木）の両日、加木屋町御林の森でみたヒメボタルの飛翔発光は特に見事でした。数えきれぬ程のホタルが、静ま

りかえった夜の闇を背景に、美しく神秘的な光の瞬きを見せていました。まさに森のホタルといわれるゆえん、そこに見た感じでした。

5月29日に実施したホタル観察会のあと、親しい者数名で、今後の東海市のホタルについての調査・研究の課題について話し合いました。その内容を幾つかにまとめてみると以下のようになります。

(1) 市内におけるおよその分布状況・生息環境の概略がつかめてきたが、ごく狭い地域に3種類のホタルが混生して見られる所が5カ所あり、この5個所に共通する点は何か、明らかにしていくことによってホタルの生態を自然史的にみていくがかりができるのではないか。

(2) 分布状況を概観してみると、一部の例外はあるが、およそ、等高線10m前後より下にハイケボタル、10m～20m（一部二十数m）の間にヒメボタルが生息している。このことが意味していることは何か明らかにしていきたい。

（山地性といわれたこともあるヒメボタルであるが東海市の場合は30mをこす所にはほとんどでてこない。クロマドボタルは20mより上に比較的多いようである。）

(3) 分布が集中している所に溜池がありその溜池の集水域にヒメボタル・クロマドボタルが生息し、溜池の下の田や水路にハイケボタルが生息していることが多い。溜池や人間の営みとホタルはどう係わってきたか。

(4) ホタルの生態観察を食性等による、他の生物との繋がりなどに留まらず、微地形・微気象・地質などの環境要因と関係させて見ていく必要があるのではないか。

ということです。

最後に、船島小学校周辺のホタル分布図を掲げておきます。このような分布図が市内全域に渡ってつくってありますので、関心のある方は下記にお問い合わせ下さい。

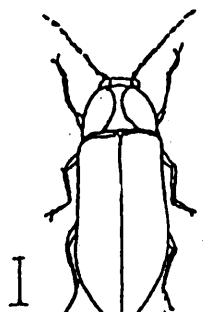
〒456名古屋市熱田区伝馬2-4-7

☎052-671-4598自然観察会/自然の学校

船島小学校周辺のホタル分布図

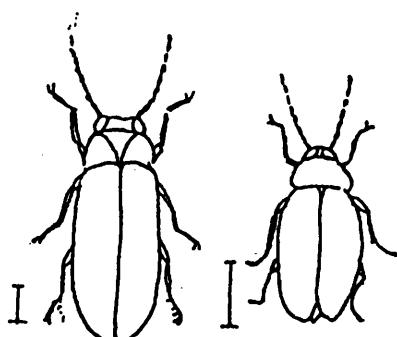
1991.5.30

No	字名	種類	数	状況
1	富木島町 北島	ヒメボタル	+	民家の庭や竹藪の中に発生
2	〃 南島	ヒメボタル	+	神社の森の中 雄が多い
3	〃 北太子	ハイケボタル	+	涌き水のある狭い田に集中
4	〃 森前	ヒメボタル	++	プール(かって池)脇の竹藪
5	〃 愛山	ヒメボタル	+	山の斜面の竹藪 めつきり少
6	〃 十二塚	クロマドボタル	+	果樹園の道沿い
7	〃 池脇	ヒメボタル	++	溜池集水域の竹藪
8	〃 〃	クロマドボタル	+	道沿いの草むら
9	〃 呂島	ハイケボタル	+	溜池の水門下涌き水のある川
10	〃 〃	ハイケボタル	+	田の脇を流れる水路
11	〃 〃	ハイケボタル	+	上に同じ
12	〃 船島	ハイケボタル	+	田と休耕田(主に休耕田)
13	加木屋町 旭	ヒメボタル	+	水路脇の土手 果樹園の端
14	〃 御林	ヒメボタル	+	果樹園の端の土手
15	〃 〃	ハイケボタル	+	涌き水のある田
17	〃 〃	ヒメボタル	++	果樹園をかこむ二次林の端
18	〃 〃	ヒメボタル	+++	森の中の道ぞい二次林の斜面
19	〃 〃	ヒメボタル	++	上に同じ



ハイケボタル

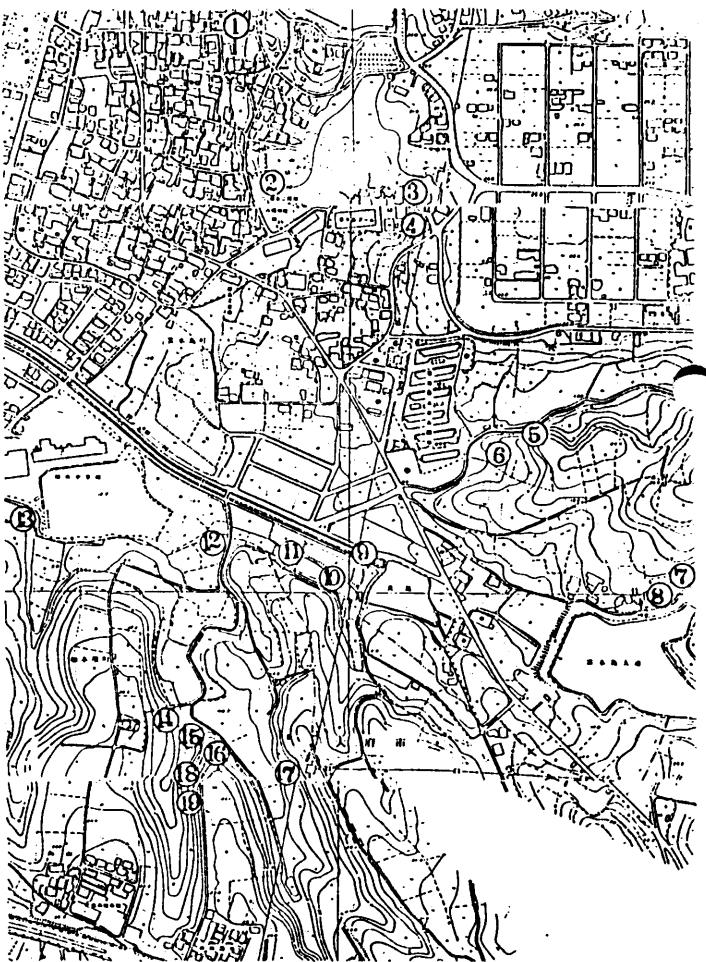
7~10mm



ヒメボタル クロマドボタル

6~9mm

10mm



観察会報告

瀬戸市物見山観察会（6月2日）

尾張支部 北岡由美子

6月2日（日）、1日中雨、
日頃の心掛けが良いせいか、朝から雨。6
月2日に向けて、ポスター・葉書攻勢・新聞へ
の掲載依頼と考えられる限りのことをしてきた
のに、と意気消沈。

しかし、予想に反して、9時過ぎには集合場
所の愛知環状鉄道山口駅前には50名程の参加者
が集まりました。挨拶の後、北岡（明）、吉田
、北岡（由）、鬼頭、鈴木の各リーダーに、も
のみ山自然観察会のメンバーがサブリーダーと
なり、4班で出発。

物見山入口の雑木林で、今日のテーマ「森の働き」について、植林地と雑木林の違いを見ながら説明。丁度、雨が降っていたため、雨滴の落ち方も人工林と天然林では違うことを実感できました。また、タカノツメやマンサク等の特徴ある樹木や、名前だけは知っていても実物を見たのは初めてというコウゾやスイカズラに話題が集まり、「ああ、これが和紙の原料のコウゾなんですねえー、面白い実ですねー」と関心する人もいました。

海上の森は、自然の宝庫です。子供達はオオオサムシを見つけて「スゲーやつ！」とか、帽子でカワトンボを捕まえようしたり、雨のなかでも元気一杯。オトシブミの説明をしたとた

ん、小学生の男の子がポットン型のオトシブミを見つけ今日のヒーローとなりました。今まで誰も、物見山で見つけられた 腐生ラン オニノヤガラかった種類でしたがさすがに子供の眼は鋭い！

雨は降り続いていましたが、コアジサイの薄紫色がとても美しく、オニノヤガラの奇妙な花を見つけた班もありました。何といっても好評だったのは木イチゴの食べ比べで、ナガバノモミジイチゴの熟成した甘さとニガイチゴのちょっと酸っぱい甘さのどちらがおいしいかは、票がわかれ、結論は？

武田信玄が物見に使ったという頂上の展望は皆無で、食事は海上部落の民家を借りることとし、いのりの周りで昼御飯を食べた後、今日のまとめをしました。こんなに素晴らしい自然を万博というイベントだけのために壊してよいものだろうか、と言う素朴な疑問がわいたようです。

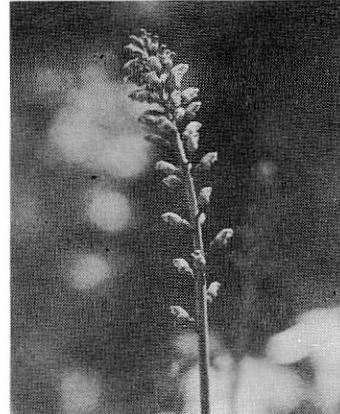
結局、一日中雨降りでしたが、参加者は雨ニモマケズ風ニモマケズの熱心な人ばかりで、実に楽しい観察会だったのでは。それにしても、こんな天気の中、50余名の人が集まつたのは、もみ山自然観察会を中心とした日頃の活動の成果が現れたのかな、と思ひました。

反省点としては、山頂のゴミ拾いの件、リーダーの自己研修の必要性などが出来ました。

子供も大人も楽しめる身近な森、それが海上の森です。この広大な森が出来るだけ自然のままの姿で残る事を、これからも観察会を通じてPRしていこうという思いを新たにしました。



雨の中集まつた参加者



東三支部

普門寺観察会（6月2日）

〔あーあ、やっぱり雨か。〕

会員、8時半現地集合。何やら雨足も強まって來たような暗い空。一番乗りは武田会長か？打合せる時には、もう10人程の会員が集まっていた。

〔うれしい！皆きてくれる～〕

こんな天気じゃあとも。ところが、次々と車が上がってくる。傘をさし、カッパを着て長靴をはき、と重装備の皆さんが降り立つ。

鳥たちは元気、老木も生き生き

まず、普門寺の立地条件を確かめ、観音堂への石段を上がる。

中島芳彦さんの解説で耳を澄ませば、ヒヨドリやサンコウチョウの声も聞こえる。400年の時を経た杉の巨木を大小7人がかりで囲んでみたり（中西さん）、お堂の軒下に大きな穴を開けているムササビの生活にびっくりしたり（神戸さん）、傘の下うなずく顔が見られた。

〔ホラ吹きのチャンピオンは誰？〕

好天ならば、斬られ岩、断層鏡肌の鏡岩、貝吹き岩等へ足を延ばす予定が変更、お堂わきの岩を参考に高橋さんが当山の岩の説明をする。ことのついでに、修験者につきもののホラ貝が登場。希望者に吹いてもらったが、日頃ホラを吹きなれている大の男が力一杯吹いても鳴らなかったりして大笑い。結局は、元トランペット部のお嬢ちゃん達が成功したに止まった。

〔全員完歩！〕

雨はやむ気配も見せず、雲も元堂あたりまで下がり、沢の水音も高まっていた。しかし、露を含んだ森の緑は、日頃あまり接していないことから、ひどく新鮮に見えたりもする。

元堂跡は、かなりの広さの平地で、池や湧水、建物の跡や古瓦などが見られる幽玄？の地だったのだが、広葉樹の伐採であっけらかんと明るくなってしまっている。鎌倉街道など歴史も加えた中島さんの解説、アサギマダラの渡りを中心とした鈴木友之さんの話で下山にかかる。

影山さんのホタルの話、まとめをし、無事観察会を終える。

一般参加者 37名

指導員 11名 (間瀬美子)

尾張支部

小牧大山観察会（6月2日）

全県一斉自然観察観察会の当日、朝から雨。少人数（参加者大人4人・子供4人・指導員2人）でありましたが、子供達の無邪気な様子に和気あいあいで廻りました。

丘陵地からうしろ、濃緑色のシイの山は霧が垂れ込めて乳色に煙っています。

田んぼは水を引くばかりに土がならされ、苗を配って居られました。その畦で、ケリが一羽を中心、2羽が両側から鳴きながら、少しずつ近寄っていました。水路の流れは急で、ウツギの白い花がこぼれ、民家の生け垣にはティカカズラの花が興を添えています。

外から見たコジイの森は新葉が僅かに赤味を帯びた黄色に盛り上がり、右手の土手ではアリドオシの小さな葉が黒光りしています。葉形が素敵なコバノミツバツツジ、ひとつふたつと花が咲いているモチツツジ。

ウラジロ・コモチシダ・リョウメンシダと見ながら登ると、溝のところでサワガニを見つけ、大人達が歓声をあげています。

稚児神社で休んでいるとシジュウカラの声。コジイの森は樹高が20m以上はあるようで薄暗く、林道上では雨に出て来たヒキガエル（若い）が車にヒカレガエルとなって。.

灌木の小道ではナツハゼの花、土手でコモウセンゴケを見た後、同じ道を引き返しました。

雨の中、本当にご苦労さまでした。

(後藤 春)

名古屋支部

針名神社自然観察会（6月2日）

参加者 7名（内子供2名）

指導員 浅井・佐野・玉井

下見ではコゲラがいた。カワセミが見れた。カルガモの親子。ヨシキリの巣をねらうカッコウの囁き。造成地の崖では、亜炭が、火山灰が地層をなしていた。知られざる名古屋の自然とでも名付けたい天白区平針の自然。そんな中で、『森』をテーマにした観察会を、実施しました。

梅雨入りした当日は、雨の観察会になった。シトシトピッチャン。コナラの生えている森・シイの生えている森・竹の生えている森・草の生えている森、それぞれの森の違いを考えても

らいました。古代の窯跡・桑の実に集まるムクドリの大群・カタツムリの行列等の発見がありました。

奥三河支部

名古屋野外学習センター観察会（6月2日）

野外学習センターに10時集合。当日は、あいにく雨となったが、奥三河、足助から9名参加（全員大人男7、女2）、福武町安藤会員（学習センター勤務）の案内で、小馬寺コースの自然を観察。ブナの原生林（部分的）、そこに至る林道沿いには、フタリシズカ、ウツギ、ヒメウワバミソウ、ハンショウズル、アワブキ、ギンリョウソウなど多くの植物が花をつけていた。山頂近い小馬寺の室内気温は11時現在9°Cであった。（石川静雄）

◆◆◆◆◆ 支部だより ◆◆◆◆◆

東三支部

東三支部は支部発足10周年を記念して、以下のようなイベントを企画しました。会員の皆さんご参加をお待ちしています。

トーク＆コンサート in IMO湿原

1. 時 1991年9月15日（日）

2. 場所 葦毛湿原入口長尾池畔
(雨天時 東陽中学体育館)

3. プログラム

①葦毛湿原ミニ自然観察会

16:00～17:00

②トーク＆コンサート

17:30～19:30

・トーク；葦毛湿原に関わった人の話
「私の考える葦毛湿原の良さ」
・コンサート；豊橋ウンドンソングの演奏
長尾池を背景に演奏します。

4. 参加は無料、定員は200名

但し、観察会は100名

詳しくは、事務局にお問い合わせ下さい。

鈴木友之 ☎0532-61-8930

なお、10周年記念誌『東三河自然観察会10年の歩み』の発行等も計画しています。

知多支部

知多からの自然だより

加藤寿芽

田植えが始まり、苗が10cmを越す水田に、ホウネンエビが見られます。どの田んぼにもいるとは限らないがとても可愛い生き物。上向きに泳ぎ二つの目玉は黒い。また、カブトエビも見られます。今、東海市、大府市、知多市、東浦町、阿久比町、武豊町、常滑市で分布調査をしています。

知多郡には、まだ自然が残っています。自然について、研究同好者が集まって談話会を発足させました。参加者は以下の通りです。

- ・武豊町文化財保護委員（和田先生）
- ・日本野鳥の会会員
- ・淡水魚研究者
- ・東海市ホタルを守る会
- ・名和昆虫館指導者
- ・自然観察指導員
- ・ため池の水生植物会会員
- ・南知多生物研究会会員

その名はクロムヨウラン？

東三支部 伊東仙治郎

長年、山歩きをしていても決して珍奇なものを探し求めている訳ではない。しかし、本宮山麓で突然眼の前に現れた枝も葉もない黒い線香のような3~4本の植物には、正直いって「何だこりゃあ」と驚いた。調べようにも手掛かりになる葉もなく花もなく、悶々の末ついに忘れていった。

それから数年たって、今度は豊川市平尾地内で再び同じものと遭遇したのである。この時も花はなく黒いさく果だけがついていた。細くて、小さくて目立たない存在である。うっかりすれば見落とすところであった。古いさく果を頼りに花の咲くのを待ちかねながら、カメラを肩に通いつめたのである。7月終わり頃だったか花を見て2度びっくり、花はまぎれもなく「ラン科」の花であった。

図鑑によれば、「普通のランが葉緑素を持ち、炭酸同化作用を行って養分を得ているのに対し、葉緑素を持たず、自分自身では養分を得ることが出来ないランの一群があり、これを腐生ランとよぶ。腐生ランは根の中にラン菌を取り入れて消化吸収し養分を得ている、菌の寄生植物である。」とあった。

ツチアケビやオニノヤガラも腐生ランだそうだが、草丈が大きいし、色彩も強烈である。これは以前に3年余り追跡調査した経験があるので



で良く知っていたつもりだが、この黒漆塗りの線香が、花を見るまで、まさか腐生ランの仲間だったとは夢にせも思わなかった。葉もないんだから無葉蘭とはよくいったもんだ。

休日の自然ウォッチングを楽しむ

名古屋支部 佐野 滋

親会社の定例懇談会で、某社の72才になられる会長がこんな話をされました。

「無心になって仕事に全力を擧げて取り組むのが健康の秘訣」と。

しかし私は休日にはカメラ、双眼鏡と虫メガネを持って野山を歩き、ネイチャーウォッチングをする。「花や鳥を見ていると仕事を忘れる」精神面での効果も大で、趣味を兼ねた健康管理になる。

自宅を会社の近所に移した現在、毎日の日課だった徒歩での通勤が大巾に短くなった今日、休日の楽しみとなっている野山歩きを兼ねたネイチャーウォッチングに、より一層精を出そうと思っている。

野鳥の会にも入っているが、グループで行動することが多い。大勢でいけば鳥に逃げられるケースも少なくない。そこで一人で出掛けることにしており、野山をゆっくり歩き、木、花、鳥の観察にも十分に時間をかけている。仕事を忘れて無心で観察することは身体的にも精神面にも良いようだ。

豊田市自然観察の森からの自然だより

長尾 智

「豊田市自然観察の森」は、市民が身近な自然に親しみ、自然に対する理解を深めることを目的として、環境庁、愛知県、豊田市が共同出資して設けたものです。

21.5haの敷地の中に、ムラサキシキブ・ササユリの花が咲き、キビタキ・サンショウクイ・サンコウチョウが囁り、ケシキスイ・コクワガタが樹液を吸いに集まっています。

毎月3回の観察会、体験学習の他、一般の開園も行っていますので、是非ご利用下さい。

(月曜日は定休日)

〒471 豊田市京ヶ峰2丁目2番地

☎ 0565-88-1310

自然だより



戸隠の自然だより

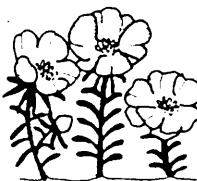
名古屋支部 朱雀英八郎

5月の連休に出かけました。4日早朝長野駅の気温0℃、7時のバスで森林植物園につく。一面の銀世界。これでは鳥も少ない。奥の湿地に入る。ミズバショウはまだ少しある。あと森の喫茶店、越水が原をまわる。ここでミズバショウとザゼンソウを見る。雪解け水が多く湿地になっている。中社よりベンション村へ(泊)

5日朝6時、野鳥の会長野県支部の探鳥会(植物園)に出る。全国から40人以上の参加、リーダー5人のチームワークがいい。声を聞き居所を探しスコープに、まずはニュウナイスズメ、ヒガラ、ノジコも池のあたりで見つける。アカゲラ、ゴジュウカラ、そしてついにキビタキも登場した。8時すぎ、もみの木園地にて朝食。

9時より自然観察会に出る。雪が解けてギョウジャニンニク、キチジョウソウ、スミレなど見る。

あと民家に立ちよって、かねてから念願だった幻の名花トガクシソウ、シラネアオイなどを見た。その色、形はうっとりさせるものがあり満足して帰りました。



母と私の街角ウォッチング

東三支部 河合和代

半年程前より、車椅子の母に伴い、実家(中柴町)の近くのあちこちへ散歩に出掛けます。立ち止まり、見上げたり、触ったり、匂いを嗅いだりしながら、ゆっくりゆっくり車椅子を押していくと、何十年も見慣れたはずの街なのに気付かなかついた多くの事に出会い、新鮮な驚きや感動を受けます。

今日(6月3日)も梅雨のあい間に大豊ビルが建つ水上ビル沿いをぐるり一廻りしました。

街路樹の柳が雨に洗われ、目にしみ入るように鮮やかな緑を放ち、その太い幹には、黄緑色の苔がむし、何とも言わぬしつととした、たたずまいです。商店街の並ぶこのビル周辺は、埃っぽく、雑多な印象しか持っていないませんでしたから驚きです。

おや、柳に混じってかえでの若木が数本。あ、そうだった。昨年の台風で何本かの柳が倒されました。それに代えて植えられていたのです。

あちこちにあるビワの木は、実が美味しいように色づき、スズメやヒヨドリがついばんでいます。

街路樹の他に商店街の人々が丹精込めた花壇には、その家思いの物が植えられています。ぶどうの木、桜、バラ、あじさい、みやこわすれ、ゆずら梅、ハツ手、おもと、はこねうつぎ、おしろい花、シャボテン、「梅の実も大きくなっているねー。」「ユリの香りの良いこと!」、アマリリス、オダマキ、シュロ、南天、万両、柿の木、牡丹、芍薬、しもつけ、つわぶき、雪の下、どくだみ....等々、数え挙げれば切りがありません。こんなに色々の物が植えられていたのです。

イチジクやざくろの花や、ノコギリ草に子供の頃の郷愁を感じていると、さっと燕が空を切って行きました。角地にあるジーンズショップの日除の中を見上げると、一羽の燕が卵を温めています。もう2度目で、10日ほど前に7羽の雛が巣立って行ったそうです。

豊橋駅から5分もかかるない水上ビル沿線——こんな街中でも、四季折々の自然が息づいています。

「今日もいろいろな発見があったね。又、来ようね、お母さん!」その頃には、真白いはまゆうや、ピンクの夾竹桃がやさしく風に揺れて私達を迎えてくれるでしょう。

名古屋城外堀の自然

尾張支部 北岡明彦

6月に入ると名古屋城外堀名物のヒメボタルが、話題となります。今でも豊かな自然が残っている証拠です。

その他にもいろいろ貴重な（大都市の真ん中としては）動植物が残っています。例えば、春一面に外堀を埋め尽くすタンポポは、全部トウカイタンポポ。クサボケも、ほんの少し残っています。昆虫では、ミカワオサムシが比較的多

く、昼飯の残りを使ったベイトトラップにベッコウヒラタシデムシヒメヒラタシデムシがウジャ一と落下してびっくりしたことありました。

今の時期は、イタドリの葉上でせっせと搖籃をつくるカシルリオトシブミよくみかけます。都会の真ん中でしたたかに生きる小さな森林性昆虫にとって、外堀の森や草地は本当に貴重な住家になっているようです。

自然観察施設訪問①

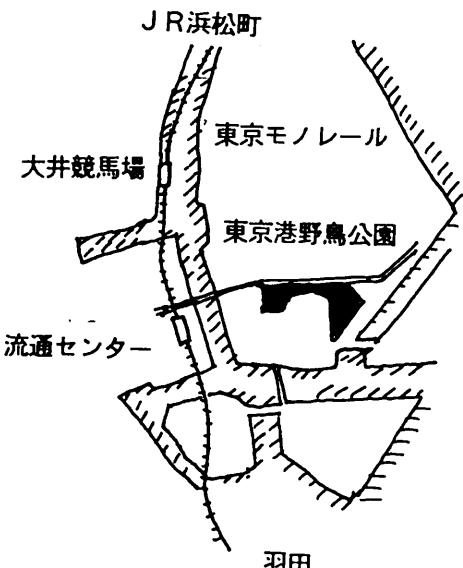
東京港野鳥公園

中西 正

この施設は、東京湾の最奥に作られたバード・サンクチャリーで、近くには羽田空港があります。周囲の道路との仕切りは、2～3mの高さの築山と、樹木が植えられています。入口に入ったLの位置に管理センターがあり、なかは大きく二つにわかっています。センターから右側のスペースには小さな森と芝生広場があり、野外活動や自然観察会に使われます。左側がサンクチャリーのスペースで二つの開水面が作られています。ひとつは淡水の池で、周囲にはヨシが茂り、池の中央には島が作られています。環境維持のため、ヨシは茂りっ放しにはせず適度に刈っているということでした。ただこの作業はきめの細かさが要求されるため、素人に頼むことのできない大変な作業という事でした。淡水池から4～5mの段差に、海水の入る人工海域（干潟）が作られています。

人工海域の真正面に、観察用の建物があります。なかからは二つの池が観察できます。壁はガラスの面が広く、円形にせり出しており視界が広くなっています。窓際には、プロミナーが備えられ、観察できる鳥のイラストもそこにあります。私たちが訪れたときには、ユニホームを着たシルバーガイドの人達が2～3名いました。このフロアの奥には、管理者で解説もするレインジャーが常駐しています。このレインジ

ヤーによると、施設の利用には、学校の遠足も多いということでした。ただ施設の中に入られた後は知らん顔ということが多く、危険で騒がしく、問題であるということでした。池の水際には屏を大きくしたブラインドがつくられており、より近くから観察できるようになっています。ここにもシルバーガイドがいました。築山が池を隠すように配置され、その斜面に道路がつけられています。気になったことを一つ、植樹されて間もないためか、若い木が多いこととその中に園芸種が多いことです。



公園案内、団体利用の申し込み

東京港埠頭公社 公園内管理事務所

☎ 03-3799-5031

東京都大田区東海三一

廃品を利用した実験観察器具等の工夫②

竹内 哲也

自然観察時の気温や水温の判断は、体感が望ましいのであるが、環境の異なる場所を比較して、自然のつくりを知るには、温度計の使用も否定できない。自然観察会で欠けていると思われることは、極ばかりにこだわり過ぎ環境的要素は、解説として口で済ましてしまう事が多い。ここでは温度環境を知るのに簡単で安価でしかも誤差の少ない水温測定器具の試作品である。

○水温測定具

・自作の目的

市販の水温測定器具は、高価で測定の誤差が少なく大変便利な物であるが、多くの観察会の参加者に体験させたり、測定結果を集めて比較させるには数が欲しい。そこで工夫したのが次のような物である。

・作り方

円筒のケースを洗う

残りのインクを取り去るには、新聞紙・鼻紙などを使うといいが、なかなか奇麗にならない。ある程度古新聞で拭きとった後、ペンキうすめ液で洗うと奇麗に汚れが落ちる。ペンキうすめ液は回収して、黒色ペンキのうすめ液として後で利用する。

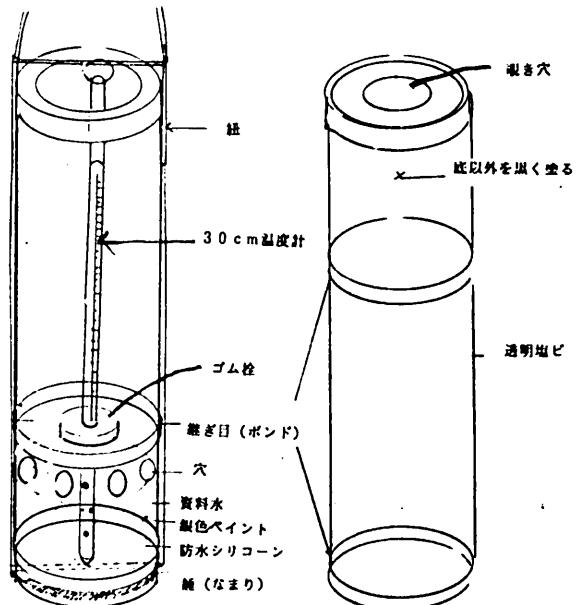
円筒ケースを切る・繋ぐ・穴を開ける

透明のプラスチックの部分は、ナイフ・鋏で切断できる。接着は、前回のように熱で接着するが、薬品で接着することもできる。筆者はジクロロメタン（塩化メチレン）を使っているが、市販の軟質のビニル専用接着剤ビニル用ボンドが手軽であり入手しやすい。20mlチューブ入り
¥ 100

30cmの温度計を図のように連結する

大切な温度計を中心部分に固定する。要は調べようとする水が池などから空中にひきあげたときに、気温の影響を受けないように水溜りの部分をつくっておくことである。

水温測定具



紐や錐りを取りつける

測定場所に投入できるように紐も着け、さらに底の部分に錐りをつけて完成。

・使ってみたら

岩の間を流れる危険な場所にこの装置を投げ入れてみた。装置は岩にぶつかり翻弄されたが大事な温度計は塩ビのケースに守られ安全であった。水溜りに汲み上げられた水は、PHを始め各種の水質検査に使った。

無骨な装置は携帯に不便だが、大変楽しく測定時間の節約と我が身の安全がなによりも嬉しいことであった。

電気的な隔測温度計が各種市販されている中で、あえてシンプルな温度計を使用したのは、直視的な測定が自然観察時に有効であると自我自賛しているためである。

○水眼鏡の作り方

円筒の容器の長さをなるべく生かして底の部分を切断する。容器の蓋のある部分に透明な塩

ビ板を円切りカッターで切断して、接着する。塩ビ板の傷は、水に接する部分は苦にならない。円筒の側面を塗料（黒色のペイン）を塗って出来上がり。円筒の内部にライトを取り付け、底に大口径の虫眼鏡をつけたりするとおもしろくなってくる。レンズに水がつくと拡大の効果がなくなる。できれば円筒を二重にして、上下にスライドして焦点を節約できるようにするとよい。水深によっては、筒の長さを2倍にする。接着剤は、水温測定具の接着剤と同じ。

新刊聞スクランブ

愛知県内の名古屋版・東三河版・等地方版に載った自然に関わるものをお紹介します。

◆サギとウが激減——弥富野鳥園◆

海部郡弥富町の弥富野鳥園で異変が見られる。サギがいっこうに子育ての巣づくりをせず、カワウが一時姿を消した。松林が全部枯れたのが主な原因らしいが、はっきりしない。

(91.5.10 朝日)

◆親子サル市街地に出没◆

瀬戸市東部の市街地に親子3匹のサルが出没。野生と見られ、行動範囲はほぼ3キロ圏に及ぶ。「人に危害を加えては」と同市は知事に捕獲申請を出した。(91.5.12)

◆わたぼうしが満開◆

犬山市西洞のヒツバタゴ自生地で、わたぼうしをかぶったような花が満開になり、訪れる人を楽しませている。ここは1923年国の天然記念物に指定された高さ12メートルほどの木が8本ある。(91.5.15 朝日)

◆幻の花クマガソウを絶やすな◆

東加茂郡足助町追分、大山征治さんが25年間自分の山で栽培。今では1,700株に増えた。4月下旬から5月にかけて緑褐色の花を咲かせる。

(91.5.16 朝日)

・使ってみたら

水槽内でしか確かめてないので、なんともいえないが、ジュースの空き缶にビニルのフィルムを輪ゴムでとめた簡易的な物よりは、長さや耐圧の点で優れているように思う。次に、光ファイバーケーブルを使って、空中の光で、水中を照らしてみたいと思っている。所期の目的は廃品の再利用であったが、だんだん怪しくなってきた。うまくできたら実物で紹介してみたい。

次回は、小鳥の給餌容器やガス溜め装置などの予定。

◆どこへ行った野性動物——猪高緑地◆

名古屋市内で野性動物がいる数少ない場所の一つ、名東区の猪高緑地一帯で自然愛好家らがタヌキの巣穴をみつけた。20日間ほど観察に通ったが肝心の動物の姿は見られず、愛好家たちは「野犬やヤマイモ掘りの人たちが脅えさせたのではないか」と心配している。

(91.5.17 朝日)

◆カワセミ研究大金星◆

豊橋市動物園の武田芳男獣医（本会会員）と飼育係チームの論文、「豊橋市動物園におけるカワセミの繁殖」が29日鳥羽市で開かれた日本動物園水族館協会の総会で表彰を受けた。昭和62年、日本で初めてカワセミの繁殖に成功。その後も生態や行動を克明に記録し、論文としてまとめたもの。(91.5.30 毎日)

◆無事に育って！アカウミガメ◆

アカウミガメの産卵地として知られる豊橋市細谷町の海岸で、3日夜砂浜に産みつけられた卵の移しかえ作業が行われた。この卵は先月30日、夜9時ごろ豊川市の会社社長が偶然産卵現場を目撃、産卵場所が波打ち際から数メートルしか離れておらず、孵化しない可能性があったため南知多ビーチランドに相談し、移しかえることにした。この夜、午後7時から119個の卵を約30メートル離れた場所に移しかえた。

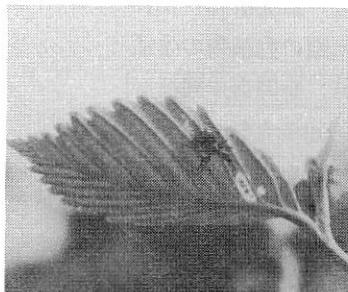
(91.6.5 毎日)

何とおもしろいオトシブミ達

尾張支部 北岡明彦

初夏から夏にかけて最も楽しい昆虫のひとつにオトシブミがあります。県下では約18種のオトシブミ類が見られますが、各々の種類はおおよそ餌とする植物が決まっています。

オトシブミは「落とし文」の意味で古人が公然とは言えないことを書いてわざと道などに、落としておく巻物のことです。道端に落



アカクビナガオトシブミ 彼らの生活

ちているヒゲナガオトシブミの揺籠を見ると、本当にピッタリの名前だと思われます。

ぶりを観察するポイントを上げてみましょう

① 種類によって食樹と葉の切り方が違う

(例) エゴツルクビオトシブミ

(葉の切り方) J型 (食樹) エゴノキ

② 揺籠を作るまでの過程がおもしろい

カシリリオトシブミのような小型種でも2~3時間かかるので、大型種では?

③ オトシブミとチョッキリの巣の違い

オトシブミの仲間はついに籠状に葉を丸めて揺籠を作るのにチョッキリ類は産卵様式がバライティーに富んでいます。数枚の葉を葉巻状に巻く種類、カエデなどの新梢をチョッキリと切る種類、実際に卵を産む種類等々。産卵方法から種の近縁関係を考える好素材。

オトシブミ達の生活から目が離せない!

年報「愛知の自然観察」執筆予定者募集

本年度から研究発表の場として「愛知の自然観察」を発行することになりました。原稿を広く会員の方から募集したいと思いますので、ご協力ください。

内容については、①自然観察の理論、方法の研究②自然観察会の実践研究③地域の自然に関する研究④会の活動報告⑤その他です。

執筆予定者を5月末までの予定で募集しましたがあまり応募がありませんでしたので再度募集します。希望者は支部通信員の方にお申し出ください。なお、原稿の締切は明年1月31日、発行は3月の総会に間に合わせる予定です。どうぞふるってご応募ください。



編集後記

34号もやっとの事、発行出来ました。心良く原稿をお送り下さり、有り難うございました。

さて、もうすぐ待ちに待った夏休み、計画は立ちましたか? 私の属する東三河支部は、10周年記念行事の準備もありいつもと違った、いそがしい夏休みになりそう。これも、次のステップの為、がんばりましょう。

次号は9月発行です。夏休みの楽しかった思い出を、いっぱいお送り下さい。但し、8月10が締切りですので間に合うように。又、左の「愛知の自然観察」の応募の方も宜しくお願ひします。

編集部会 神戸 敦

440 豊橋市多米中町1-12-3

☎ 0532-62-5308

観察会の御案内

(7~9月)

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
- ④観察会のねらい ⑤参加資格・費用
- ⑥備考

7月7日 (日) 石巻町玉川観察会

- ①東三支部 ②高齢者活動センター 9:30

③戸加里光雄 05338-6-0579

④梅雨時の川と林と田の様子 ⑤一般公募

7月14日 (日) 稲武町面ノ木峠ブナ林観察会

- ①尾張支部 ③平井直人 052-502-1020

④表日本型ブナ原生林を歩く (ブナースズタケ群集)

7月28日 (日) 阿久比川観察会

①知多支部・阿久比町環境課

②阿久比町中央公民館 8:30

④川のきれいさ

7月28日 (日) 豊田市自然観察の森観察会

④何がいるかな?樹液に集まる昆虫達

⑤豊田市自然観察の森 0565-88-1310

7月28日 (日) 宇連川支流自然観察会

①奥三河支部 (県委託)

②三河川合駅前 10:00

③石川静雄 05362-2-1171 ④清流の生物、地質、環境調査 ⑥都合をつけ全員ご参加下さい。

8月1日~5日 戸隠自然観察会・探鳥会

①戸隠観光協会 ②森林公園

③朱雀英八郎 052-911-5087

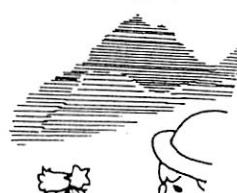
⑥朱雀氏リーダーとして参加、お立ち寄りください。

8月11日 (日) 阿寺渓谷観察会

①尾張支部 ②長野県阿寺渓谷

③北岡明彦 0561-84-2953

④暑い夏は渓流で水生昆虫観察



8月25日 (日) 猿投山観察会

①県委託

②猿投神社 10:00

④谷川の生物・地質・雑木林の観察

9月8日 (日) 下伊那の自然調査

①奥三河支部 ②国道 151号新野峠10:00

③石川静雄 05362-2-1171 ④奥三河に隣接する下伊那の自然の自然を学ぶ

⑤会員・一般 ⑥雨天決行、車で参加下さい。

9月8日 (日) 江南市草井観察会

③斎竹善行 0587-37-7616

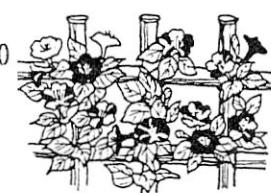
④特異な河原の動植物の生活

9月23日 (月) 野間海岸観察会

①県委託・知多支部

②野間大坊駐車場 10:00

③県自然保護課



研修会の御案内

7月12日 (金) 室内研修会

①知多地方自然観察研究会

②阿久比町中央公民館18:30 ~

③灯火に集まる虫を調べたり、虫の声を聞く

7月14日 (日) 会員研修会

①東三支部

③中島徳男 0532-55-5438

④海岸の生物の観察

7月20日 (土) ~21日 (日) 昆虫観察研修会

①協議会 ②面ノ木峠駐車場 夕方5時

③北岡明彦 0561-84-2953

◎宿泊はテントです。詳細は7月号で。

8月3~4日 夏季研修旅行

①東三支部 ②長野県しらびそ高原

③鈴木友之 0532-61-8930

9月17日 (火) 研修会

①知多支部 ②半田空の科学館 18:00

③月と秋の星空